HSIS NEWS
HOKKAIDO SHINKIN INFORMATION SERVICE LTD.
VOL.22
2024.1
【新年号】
発行：株式会社北海道しんきん情報サービス 〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212（代） FAX.011-261-1811

新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役社長
武田　大二郎

令和6年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

何年連続この書き出しをしなければならないのか、毎年心を痛める世界の動乱は残念でなりません。何も進展がないウクライナ情勢に加え、イスラエルとパレスチナの紛争も始まりました。いずれも双方の死者は増え続け、今の日本人には到底理解することのできない両国の凄惨な対立の歴史をみるにつけ、破壊することを止められない人間の愚かさと無力さに、絶望感に苛まれます。ウクライナ情勢については、既に関心が薄れてきたとも言われていますが、せめて完全な他人事にしない姿勢が大事なのではないでしょうか。

さて、昨年の信用金庫業界、そして弊社事業を振り返りますと、また例年通り種々対応に追われた一年でありました。特にインパクトが大きく感じたのは、インボイス制度開始に伴う対応と、本格的に運用が始まったマネロン・テロ資金供与対策に関するガイドラインによる継続的顧客管理への対応ではなかったでしょうか。

弊社としても、株主信用金庫に少しでもお役に立てるよう各種サービスの検討に取組み、信用金庫の手足となるよう微力ながら注力してまいりました。

これからも、特に上記のような制度対応、金庫にとって利益に繋がらないような仕事への支援サービスは、弊社の役割としてしっかり対応してまいる所存です。

この、弊社の役割（＝設立趣意、存在意義、使命…）というのは、言うまでもなく我々が常に忘れてはならない最も重要なものですが、業界としてその「原点」とも言えるようなことが、時の流れと共に薄らいでいったりズレてしまったりしている場面を、長くこの世界に身を置くと目にすることが往々にしてあります。

この業界にいれば全信協が発行する「信用金庫新聞」は皆様もお読みになると思いますが、メインの記事もさることながら、私は左隅に掲載されている「地縁人縁」というコーナーをいつも楽しみに読んでおります。

特に最近投稿された記事は記憶に新しく、共感したもので、是非今回の新年ご挨拶ではお許しのうえ、これを引用させていただきたいと思います。

先般のある号の投稿で、『「金融排除」「伴走型金融」など、地域金融機関に積極的な中小企業支援を促す造語がみられるが、これらに違和感を覚えるのは私だけだろうか。』というストレートなお言葉での書き出しの記事がございました。言わんとする事は『このような言葉は一見目新しい言葉のようであるが、実際の経験に乏しいアマや外部者から発せられるものではないか。例えば大学教員、都銀OB、会計士、経営コンサルタントなどは、地域金融機関に対して、もっともらしいことを述べたり政策提言を行ったりするが、中小企業融資に直接携わった経験がない方がほとんどであろう。我々プロは、培ってきた手法に基づき、毅然として与信審査と与信管理を行えば良いのではないか…』と。

直言居士とも言える方の爽快な記事でしたが、これはまさに、信金の共同システムの考え方や我々地区情報サービス会社にも全く同じことが言え、我々が存在する意義や理念といったもの、設立趣意をみれば「何を今さら…」と何十年も前から言われていた課題や問題点、意見を、あたかも最近湧き起こり気付いたように、あるいは真しやかに語る人を目にするのです。世情の変化に伴い、多少の変化はあっても、共同の原点と課せられた使命は変わらないはずであり、それは信金の原点である相互扶助の精神や地域密着（地域貢献）を変わらず貫くという点で共通していることであると信じています。

この精神を、弊社社員も信用金庫の皆様と同様忘れずに、新年も尽力してまいりますので、何卒倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 副委員長
戸島　隆志（遠軽信用金庫 常勤理事）

新年あけましておめでとうございます。

令和6年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、時のたつのは早いもので、システム検討委員会副委員長を拝命して、あっという間の1年4か月でした。この間、世界情勢はロシアによるウクライナ侵攻問題の長期化に加え、イスラエルにおける地政学リスクの顕在化等、「不確実性」や「分断」というネガティブなキーワードが印象に残る期間となりました。

一方、国内情勢につきましては、「賃金と物価の好循環」の実現を先取りするかのような市場金利上昇を受け、金庫のポートフォリオをどのように構築・組み換えていくのか。これまでのリスク管理手法は適切なのか。ネット取引が進展するなか、従前に比べ高まった流動性リスクへの対応として、どのように粘着性の高い資金調達を継続的に確保するのか。等々、潮流の変化に頭を悩まされた方々も多かったのではないでしょうか。

信用金庫業界としても、タッチポイント（顧客接点、チャネル）の変化によるリアル店舗の稼働率低下に加え、キャッシュレス化による現金の利用頻度減少は顕著となりましたが、現金の取引がゼロになる時代の到来はまだ先のことと予想され、店頭窓口の維持とキャッシュレス化への対応という両方向への対応を迫られているのが実態です。

デジタル化の進展が業務に与えている事例として、当金庫のみならず、事務効率化の観点から事業先等へWEB−FB等のサービスを積極的に推進している金庫も多いと思われますが、内部事務の効率化は図れた一方で、これまで窓口で収集できていた情報が減少してしまった。もう少し大枠で考えると、お取引先の全体像を把握することが難しくなり、提案力が低下するリスクを考える必要があるのではないか。といった観点で対策を練る必要性も感じるところであります。

金庫によって懸案事項は様々であり、全てをデジタル化や事務効率化で解決できるものではありませんが、業務の土台である「事務」のタイパ・コスパを向上させることで、これらへの対処のみならず、新たな時代へ対応する力を捻出できるものと考えております。

また、その手法もスクラップ&ビルドや部分最適ではなく、例えば「紙」を前提にした業務を網羅的に再構築する等、新たな視点に基づいた全体最適で検討する必要があるのではないでしょうか。

我々の業務はどう変遷していくのか。当金庫では、若手職員も構成員としたDXに関する検討会を設けています。そのなかで構成員に投げかけた「当金庫のなすべきこと（ミッション）」との問いに「新たな価値の提供」というキーワードが寄せられました。

信用金庫生活が30年を超える私としては、「地域密着」や「地域社会への支援」等を想定していた問いでありましたが、気持ちよく期待を裏切られた事例です。

結びになりますが、新しい年がこういった若い職員の発想を少しでも実現できる年となること、また、道内信用金庫並びに役職員の皆さんにとって、輝かしい1年となることを祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

インボイス発行に関するサービス提供のご案内

本年10月より開始されましたインボイス制度に伴い、金庫がお客様へ発行するインボイスの作成・発送に係る事務負担の軽減を目的とし、2つのサービス提供を開始しましたのでご案内いたします。

いずれも金庫のご要望を取り入れつつ、共同利用型サービスとして最大限まで引き下げた価格を設定いたしましたので、是非ともご利用についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

DM作成サービス「手数料のお知らせ」（インボイス）

しんきん共同センターにおける機能追加により、営業店やセンターカット等で徴求した各種手数料のうちインボイスの発行が必要なデータについて、「インボイス管理DMファイル」として還元されることから、本還元ファイルに基づくDMの作成から発送までを一括で行うサービスです。

DMは「はがき」と「封書」を用意しており、金庫毎にご選択いただけます。また、お客様毎の明細数に応じて「はがき」と「封書」を自動切換対応するサービスも用意しております。

〈印字イメージ（はがき）〉

〈印字イメージ（封書）〉

本サービスにご興味をお持ちの金庫様は、
企画・営業推進課までご連絡ください。

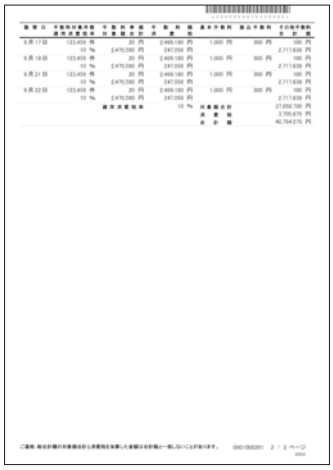
☎ 011-221-2210

口座振替手数料インボイス発行サービス

金庫が口座振替契約を締結している企業に関する口座振替手数料のインボイスについて、月次でPDFを作成し、電子メールで契約企業へ送付する、もしくは窓口配布向けに金庫納品するサービスです。

オプションとして、契約企業へ封書を発送するサービスも承っております。

〈印字イメージ〉



本サービスにご興味をお持ちの金庫様は、
システム管理課までご連絡ください。

☎ 011-233-1287

あとがき

「HSIS☆NEWS」新年号発刊にあたり寄稿のご依頼をいただきましたが、昨年身内に不幸があったため新年のご挨拶は控えさせていただき、あとがきにて失礼いたします。

新型コロナウイルスの5類移行後、私たちを取り巻く日常生活も仕事も、平時の状態に戻りつつあります。道内各地にも国内外から多くの観光客が訪れ、コロナ禍以前の水準に回復しつつあるとの嬉しい知らせも届いております。

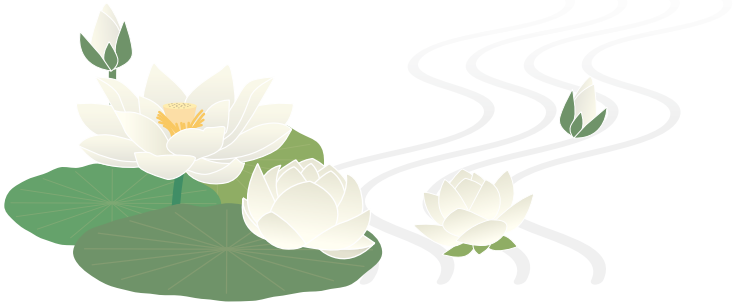
しかし一方で、オーバーツーリズムの懸念、特にサービス関連業種における人手不足などが大きな課題となっているほか、コロナ蔓延により変化した私たちの態様全てが蔓延前の状態に戻る訳ではなく、むしろ常に変容を求められる時代に突入した感が否めません。

足もとを見ますと、マネロン対応などといった負担の決して軽くはない業務もある中で、道内信用金庫役職員の皆様におかれましては、お取引先の各種支援に奔走されているものと推察いたします。

かかる状況下、お客様と向き合う時間を捻出するためには、業務全般を見渡し、私たち自身も変容・変革（DX）し続けなければならないと考えます。

システム検討委員会は、道内各信用金庫の共通課題を認識・共有する場であり、業務効率化をキーワードとして変容・変革（DX）を追求し、議論する場であると考えております。

今後も道内信用金庫役職員の皆様のご意見を賜りながら、課題解決に資する活動を、甚だ微力ではありますが委員長の責務として推し進めて行くことをお約束し、あとがきといたします。



北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 委員長
山本　広幸
（帯広信用金庫 業務サポート部 部長）

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス
〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル　TEL.011-233-1212（代）　FAX.011-261-1811